

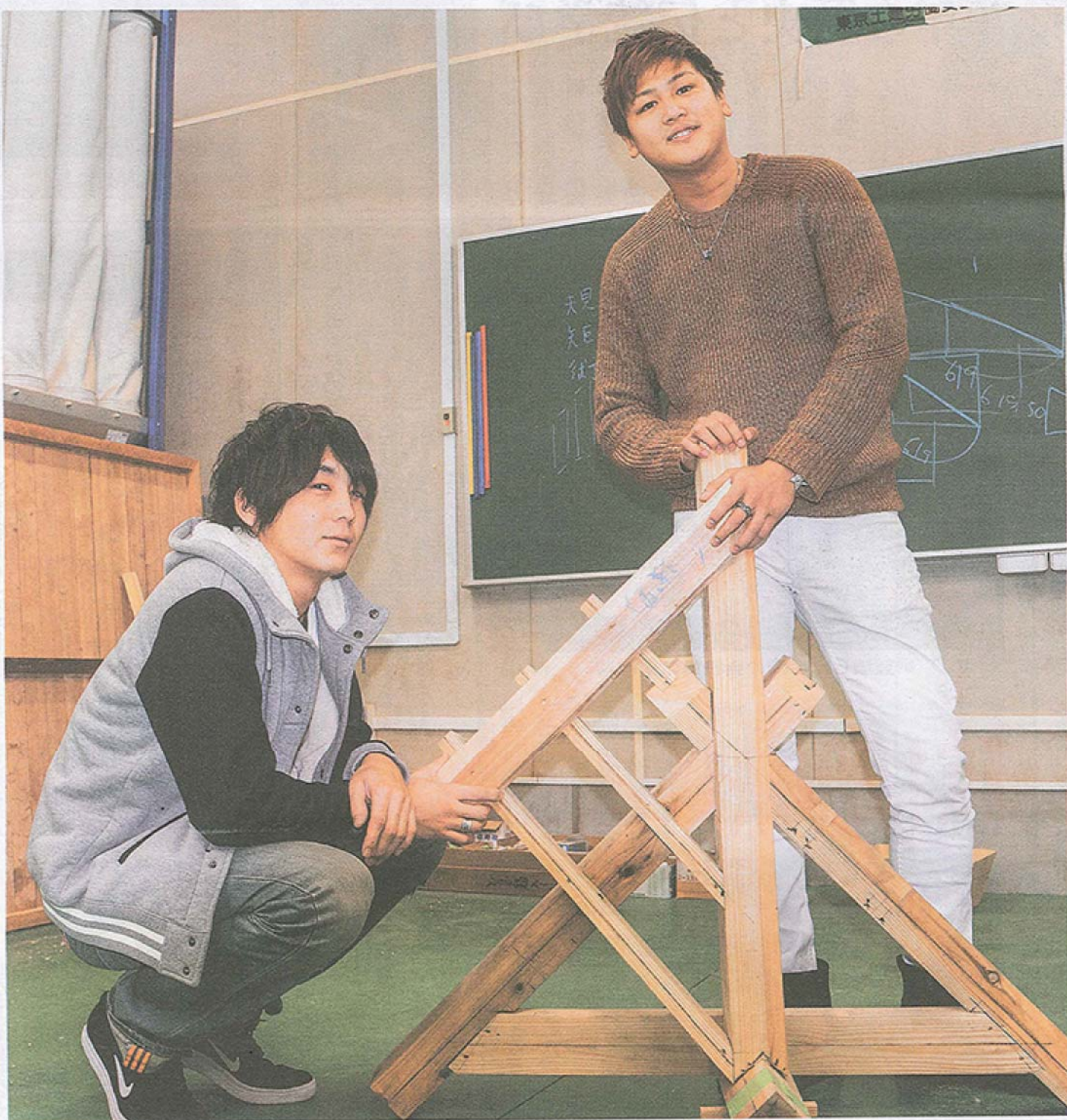
新年あけまして  
おめでとうございます  
編集部一同



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

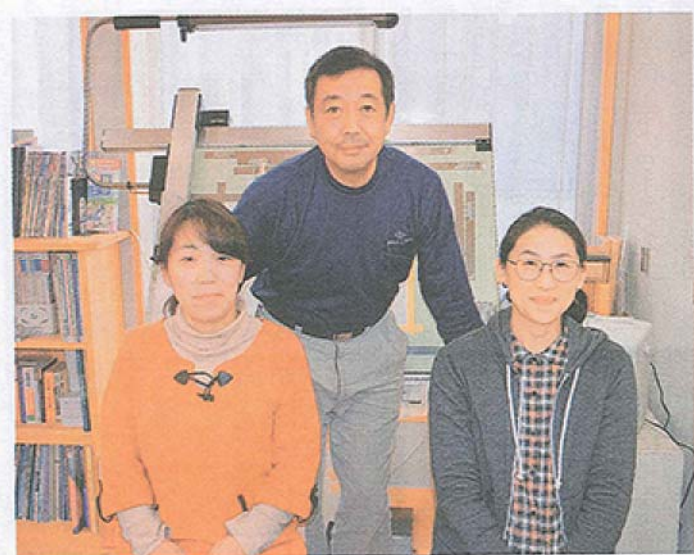
印刷部数11万3300部  
(購読料は組合費のな  
かに含まれています)  
(年間購読料 千八百円)  
定価 五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16  
東京土建一般労働組合  
電話03 (5332) 3971 (代表)  
FAX03 (5332) 3972  
発行人・編集人  
三木 勉



右から芳賀さん、浅野さん、(東京建築カレッジ池袋校舎)

# 70年の歴史の重みを跳躍台に 建設産業 切り拓く後継者つくる



會田さん(中央)と會田工務店のみなさん

東京建築カレッジ(以下カレッジ)に20期生として浅野翔さんと芳賀利也さんを送り出している、荒川支部の會田猛さん(大工・會田工務店社長)に、カレッジ活用への思いを語っていただきました。會田さんはこの2人の他、卒業生2人を含せて4人のカレッジ研修生を派遣しています。

## 自分の考えでモノ作り カレッジ派遣事業主の會田さん

【會田猛さん談】  
大工になるのに技術だけでなく、知識も必要です。大工を志す子でも建築科の学校ではない普通科の子が来ています。なおさら、知識もないだろうからカレッジへ行くことを条件に雇い入れをしていくことになりました。

赤地龍馬先生がおられ、先生がカレッジの講師となられたので、安心してカレッジに研修生を送ることができました。カレッジは同年代の人たちが多くいますが、会社や現場では若い人は多くないですから、カレッジに行けばコミュニケーションも取れる、仲間意識も生まれるのではないかと。そうして過剰に思っているのはいいと思っていま

私が取ってくれています。また私のところは町場の元請ですが、協力会社にも通達しているの、その人たちも協力して育てるようにしています。そこにはどきどきまでは実際大変でした。

## 仲間をつくらせて 建築業界に残る

カレッジで学ぶことで建築業界に残れるような雰囲気作りができるのではないかと。仲間をつくらせて業界に残ってもらいたい。そして自分の考えでモノづくりをしていってほしい。今の子は自分からではなくやれと言われたことばかりの子が多くなってきました。モノ作りだから誰かがやってくれるわけではないので、自分でどんどん道を切り拓き、技術も身につけていき、果立ってもらいたい。

## 入学して 良かったこと

【浅野翔さん談】「技術面の向上はもちろんです。図面の見方、書き方を基礎から学べたこと。卒業制作でも役立っています」  
【芳賀利也さん談】「共に学び、一生付き合える仲間と出会えたことです」